

「語れるまち なばり」を 目指してリニューアル!

A4 カラー版の「広報なばり」はいかがでしたでしょうか。リニューアルのポイントは、市の総合計画の基本的な考え方である「語れるまち なばり」を目指していこうということ。

■「語れるまち なばり」って?



簡単に言うと、「まちの魅力を知って、まちに愛着をもって、まちに関わる人を増やしていこう」ということです。広報なばりの編集方針にも、こんな項目があります。

ふるさとの香りがする広報紙へ

「語れるまち なばり」を目指し、まちに誇りを感じられる記事を掲載し、市民の皆さんのまちへの熱を高め、まちとひとをつないでいきます。(編集方針より)



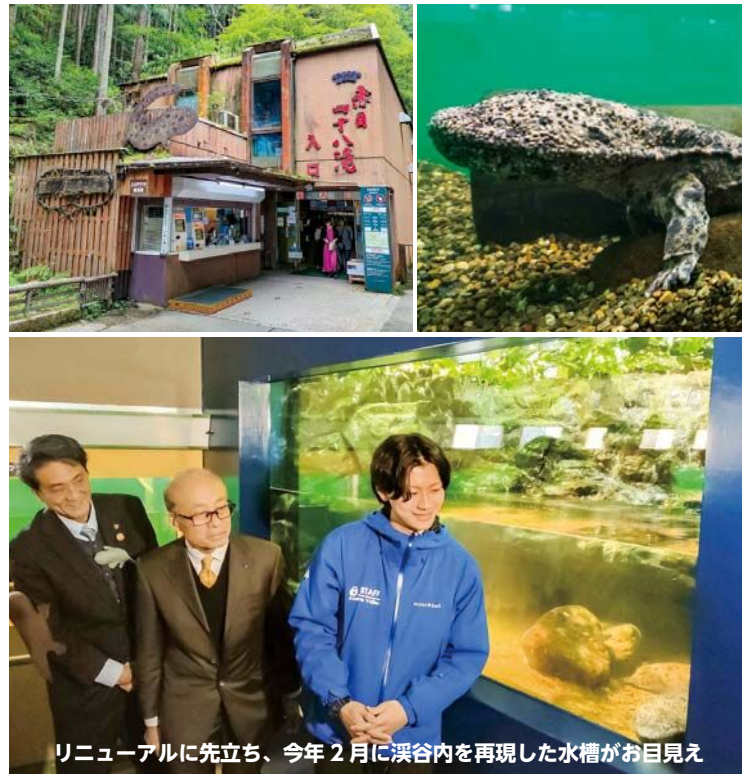
そんなわけで、表紙と最終面には「ナバリリスト」として「まちを愛し、まちを元気にしよう」と取り組んでいる人」をご紹介します。他にも、名張の魅力に迫る記事をたっぷりと掲載していきます。

■必要とされ、親しまれる広報紙へ

分かりやすい表現、理解しやすいレイアウトを目指しつつ、市の取組や課題などを掘り下げる特集を掲載するなど、今後も皆さんに必要とされ、親しまれる広報紙を目指します。



お出かけしませんか?



4・20 滝入口の日本サンショウウオセンターが… 「赤目滝水族館」に生まれ変わります!

赤目四十八滝の入口にある「日本サンショウウオセンター」が、4月20日、「赤目滝水族館」としてリニューアルオープンします。渓谷内に潜むオオサンショウウオを再現した水槽をはじめ、川魚やカエルなど赤目渓谷に棲む多様な生き物も展示するので、子どもから大人までワクワク。そして、この水族館を抜ければ、渓谷の魅力を全身で楽しめる「生きた博物館」があなたを待ち受けます。

リニューアルは、日本唯一の水族館プロデューサーでもある中村元さんの助言を受けて、赤目四十八滝渓谷保勝会が進めてきました。新緑あふれる赤目四十八滝と一緒に、赤目滝水族館へぜひ遊びに来てください!



渓谷保勝会HP
料金など詳細

渓谷の魅力伝える水族館に

赤目四十八滝は壮大な渓谷美に加え、オオサンショウウオを含む多様な生き物や植物と出会える類いまれな渓谷です。

赤目滝水族館では、この渓谷に生息する生き物や豊富な苔類を中心に展示。渓谷に息づく命の営みを知っていただくことで、渓谷歩きがより豊かな時間となるはず。



はじめ 中村元さん

水族館プロデューサー
名張市地域力創造アドバイザー

じもと再発見 なばりじまん

当日は、あいにくの雨。松明講員やツアー客、近大高専の生徒などが、ずぶ濡れになりながらも、東大寺を目指しました。参加した30代の男性は、「昔の人は、こんな重たい松明木を担いで山道を歩いていたらなんて。長年、行事を守り続けてきた人の思いや歴史の重みを感じるツアーだった」と話しました。ぜひ、来年は、あなたも750年以上続く歴史を体感してみたいかがでしょうか?

受け継ぐ思いを鉄道で運ぶ

【伊賀一ノ井松明調進行事】

奈良東大寺の二月堂で行われる「お水取り」。関西地方に春を呼ぶ行事として有名です。このお水取りで使われる松明は、赤目町一ノ井から調達(とこのえて納めること)されています。昔は、約35キロある松明木を担いで峠を越え、東大寺まで運んでいました。今年は、松明調進を広く知ってもらおうと、近鉄電車を貸し切り、松明木を運ぶ初めてのツアーを開催しました。



3月12日に行われた松明調進には、約150人が参加。近鉄電車を貸し切り、ツアー客と共に奈良東大寺まで運んだ。

歴史の重みを伝えたい

今年は近鉄にご協力いただき、ツアーを企画。約150人の参加者に松明調進の歴史を肌で感じてもらうことができました。松明木は重いですが、歴史はもっと重い。担ぎ手が高齢化しているため、電車を使ったり、今回参加した近大高専の生徒たちなど若い人にも手伝ってもらいながら、776年続く歴史を次代へとつないでいきたいですね。



語るひと 森本 芳文さん
(伊賀一ノ井松明調)

puriketsu.orz さんの投稿

プチ反抗期の息子。写真を撮られることを嫌がってしまい、なかなか笑顔が撮れなくて…。どうせならお互い楽しもう! って、笑ってノリに乗ってきた所をパシャリ。泣きそうになるくらい嬉しい日となりました。

撮影地: 赤目町丈六

Instagramの投稿を再編集して掲載しています



#名張感動

このまちは感動に満ちている

Instagramで「#名張感動」を付けて投稿いただいた作品をご紹介します。特産品などが当たるキャンペーンを今年も実施予定!

